

令和7年度 第1回新潟市歴史博物館運営協議会 会議録要旨

- 【日時】 令和7年8月1日（金）
14時00分～16時00分
- 【場所】 新潟市歴史博物館本館2階セミナー室
- 【出席委員】 池田 哲夫 会長 （新潟大学人文学部名誉教授）
渋川 綾子 副会長 （にいがた湊あねさま倶楽部）
石黒 裕則 委員 （新潟市立木崎中学校長）
今井 美穂 委員 （新潟日報社）
殖栗 大輝 委員 （公募委員）
加藤 芳和 委員 （日本旅行業協会新潟県支部）
中村 美香 委員 （(有)ミカユニバーサルデザインオフィス）
原 直史 委員 （新潟大学人文学部教授）
比金 克久 委員 （新潟市小中学校PTA連合会）
松井 大輔 委員 （新潟大学工学部准教授）
村山 賢誌 委員 （公募委員）
- 【オブザーバー】 野澤 真里子 新潟市歴史文化課 課長
- 【事務局】 坂井 秀弥 新潟市歴史博物館 館長
小林 隆幸 新潟市歴史博物館 副館長
吉田 英津子 新潟市歴史博物館 総務担当次長
大泉 敏一 旧小澤家住宅 館長
石田 孝子 新潟市歴史博物館 企画普及課長
森 行人 新潟市歴史博物館 学芸課長
高橋 久美 旧小澤家住宅 職員
室橋 亜衣 新潟市歴史博物館 職員

【 次 第 】

1. 開 会

2. 館長挨拶 詳細別紙

3. 議事

(1) 令和7年度事業計画及び事業実施状況

資料1・2及びスライドを用いて説明。 詳細別紙

《意見・質疑応答1》 詳細別紙

(2) 歴史博物館・旧小澤家住宅の運営方針

資料3に沿って説明。 補足別紙

《意見・質疑応答2》 詳細別紙

(3) 博物館評価

資料4～8に沿って説明。 補足別紙

《意見・質疑応答3》 詳細別紙

4. 事務局からの報告

委員任期と休館について事務局より報告。 詳細別紙

5. 閉会

尚、本会議に先立ち、今回から委員の任期が新たに始まることから委員・オブザーバーより自己紹介をしてもらった。

また、会議後に開催中の企画展「新潟市と戊辰戦争」展を担当学芸員より案内した。

《館長挨拶》

(坂井 館長)

こんにちは。本日はご多用のなか、かつての新潟のことを思うと信じがたい気温が続いているが、連日の猛暑のなかお越しいただきまして誠にありがとうございます。当運営協議会（以下、運協）は今年度から新たな任期で皆様にお願いしたところ。また今回は公募に際して多くの応募があり、手を挙げてくださった方々に感謝申し上げます。

昨年度までは運協で館の評価の在り方を検討した。開館 21 年を迎え、様々な課題があり、新潟市という土地に根差したより良い博物館でありたいということから今年度から 5 年間の運営方針を定めた。特に、重点的に取り組む課題を設定し、年度ごとに自己評価もしながら委員より客観的な評価をいただいてより良い博物館づくりに取り組みたい。当館は学術研究も行うものの地域・市民と一体の施設だと考えているため、このような取り組みをしている。

後ほど説明しますが、これまで運協を年 2 回開催だったところ、より理解を深めるため年 3 回開催にさせていただきたいとも考えている。皆さんの忌憚のない貴重なご意見をいただきたい。

《協議会の会長・副会長の選任》

立候補がなかったため、会長に池田委員を、副会長に渋川委員を推薦し、承認を得た。

《令和 7 年度事業計画及び事業実施状況》

(小林 副館長)

新任委員も多いため、まずは博物館について簡単に説明する。当館を含むエリアは旧新潟税関庁舎を中心とした新潟市の歴史・文化ゾーンとして整備され平成 16 年 3 月にオープン、今年で 21 年目になる。市の施設だが、指定管理者として公益財団法人新潟市芸術文化振興財団が運営している。明治 2 年に建設された旧税関は開港五港当時の姿を残しており、国の重要文化財となっているが、昭和 47 年からは郷土資料館として使われていた。しかし木造のため限界があり、セキュリティ面の心配や冷暖房が設置できないといったことから博物館の建設に至った。税関の敷地は国の史跡となっているが、博物館の建設に際して敷地を一体化し、国からアドバイスをいただきながら、税関を修復し荷上場も復元した。

旧第四銀行住吉町支店は当館から1km程離れた住吉町に昭和2年に建築されたものだが、広小路の道路拡幅事業にかかり取り壊しの危機に陥ったところ、優れた建物であるとして保存運動が起き、無償で市に提供されこれを移築復元した。本館は明治43年の2代目新潟市庁舎の姿をモチーフにした。建物前面に西堀に見立てた堀を再現している。

当館の事業は文化事業、文化施設管理事業、自主事業の3つに分かれている。文化事業は博物館機能を生かした事業、文化施設管理事業は施設の維持管理のための事業で、これらは市から受託している指定管理事業にあたる。近年行っている自主事業は、市から許可を受けて館が独自に財源を確保して実施している事業である。

令和7年度は指定管理事業により4つの企画展を計画している。①「にいがたてしごともものづくり展」は4/12から6/8まで開催した。新潟で紡がれてきたものづくりと暮らしの関わりを紐解きながら新潟の魅力を再発見しようという趣旨で行った。今も引き継がれているてしごとを中心に紹介し、作品販売もした。各職人さんから協力をいただき、蒔絵のネームプレートづくり、ろうそくの絵付け、金具打ち、白根絞りの体験イベントを催した。開催中の②「戦場の町と村 新潟市と戊辰戦争」展は7/31時点の17日間で1,886人来場しており、1日平均100人を超える来場者数となっている。山口隊という草莽隊を作った山口謹一郎の関連資料が当館に寄贈されたことを契機に企画した。7/26に資料紹介講座「近年新潟市に寄贈された戊辰戦争関連資料について」を開催。また8/11には前館長を講師とした記念講演会が行われるが、定員80名のところ約160人の応募があったため、2回に分けて開催することにした。③むかしのくらし展は現代では当たり前となった事柄を、昔の姿で紹介することテーマとし、小学生の授業单元にあわせて秋に開催。④収蔵品・新収蔵品展は準備中。

教育普及事業では近年博学連携に力を入れている。学校の授業での博物館の利用促進のため「教員のためのオープンデー」を昨年度から開催し、活用例を提案している。「はじめてみなとぴあ」はこれまで博物館に来る機会がなかった未就学児向けの事業で、近隣保育園と一般参加者を対象にそれぞれ開催。また大学生を対象とした「博物館実習」も実施中。高校生の博物館利用機会が少ないなか、「高校生ボランティア」には25名の高校生が参加し、彼ら独自の社会貢献として8/11に企画プログラムを予定している。

施設普及事業では当館を知ってもらい、かつ有効活用を促す試みをしている。

広報のほか、地元団体とともにコンサート等を企画。今年の春に「堀と桜のコンサート」を企画したが雨天のため中止となった。今月は「川まつり」を企画している。またファンクラブは年会費 600 円で特典事業を企画している。6/1 には坂井館長と行く「新潟県随一の高田城と城下町を訪ねて」といったバスツアーを実施した。

調査研究事業は博物館の根幹に関わる事業と言える。予算と時間が限られるなか、学芸員が各々研究した内容を展示や紀要で発表している。

資料収集・整理・保存・活用のほか、その環境管理も担うため燻蒸も行っている。

施設管理運営では、建物のほか敷地全体を管理しているが、敷地外の港湾施設「みなと左岸」についても管理を受託している。

付帯事業では来館者のサービス充実のため売店・自動販売機を設置している。

歴史発見プロジェクトは自主財源で行っている事業の呼称で、今年は「にいがた映画展」を準備している。この他に、伊東前館長を講師とした連続「古文書上達講座」(52 人参加) や、小学生を対象とした「こども歴史クラブ」(27 名参加) を企画。また外部講師・講座も依頼され、7 月末までに 30 講座を行ってきた。これらの受講料や謝礼、企業団体による協賛金を自主財源としている。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

続いて小澤家住宅について説明する。先週 7/23 の BSN のテレビ番組「水曜見ナイト」でも出演したように、来館者は多くないが、突然芸能人や外国の方が訪れる傾向がある。昨年度の来館者数は 14,872 人と前の年度と比べて 107% 増えた。令和 7 年度は 7 月末時点で 5,283 人来場し、昨年同時期と比べて少ないが、昨今の猛暑による外出控えと分析している。指定管理事業としては、みなとまち新潟の歴史や文化、小澤家の来歴などについてパネルやモニター等を用いて常設展示している。

企画事業を今年度は 9 件予定している。①「新潟歴史玉手箱」展は 4/12～5/18 に開催し 1,447 名が来館。市内で目にする石像や石仏など、見逃しやすいものを特集し来歴などを紹介した。②「筒描」展は 5/24～7/6 に開催し 2,266 名が来館。油単等に描かれた筒描を紹介し、地元の新聞にも掲載され、県内外の方から楽しんでいただいた。③桜井進一氏写真展は 7/12～8/31 まで開催中。昭和 30 年代以降に撮影した市内農村部の写真を多く展示し、当時の姿と環境を回顧し

ている。同時期に④「みんなの問題 海のゴミ」展を7/12～7/27に開催。一般社団法人JEAN所蔵の海のゴミに関する写真パネルを展示した。

教育普及事業では、体験・講座事業のほか、25名在籍のボランティアガイドの活動を実施。4/20には企画展と関連し、関根達人氏による講演会「石造物から見た近世日本海交易」を企画したが聴講者は8名だった。また本井先生を講師とした古文書講座を6/4、11、18に開催し、参加者は12人。

施設普及事業では山野草の展示や煎茶会と、来館者に新緑の季節を大いに感じていただいている。6/15には夏至祭を催し、町屋の雰囲気と飲食物を楽しんでいただき、247人が来館した。4/26には立川志の彦による落語会を企画し、38名が来場した。季節に合わせた設えとして、5/10～18には山野草の展示を行った。また5/29には簀戸入れ替えを実施したが、新潟大学都市計画研究室に依頼し手伝っていただいた。5/31～6/15には恒例のかえるまつりを行い、季節のグッズを販売するなど好評を得ている。

調査研究事業としては「旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会」に参加し、協働した活動を行っている。

資料の保存管理事業では小澤家から寄付を頂いた美術品等を良好に保存しつつ、展示に活用している。

文化施設管理受託事業としては、館の良好な維持管理とサービス向上に努め、館内や庭園などに配慮している。

付帯事業では、当館オリジナルの物販を行っており、Tシャツ、てぬぐい、ふるしきなどを扱っている。グッズのみの購入希望者もあり、歴史やみなとまち文化の普及に寄与している。

＜意見・質疑応答1＞

(松井 委員)

管理運営は旧第四銀行住吉町支店も含んでいると思うが、カーブドッチが撤退した後、どのように活用しているのか。

(小林 副館長)

住吉町支店は、カーブドッチが撤退してからは1階レストラン部分は暫定利用とし、使用希望者は新潟市歴史文化課に申し込んだうえで利用が可能。2階の日本間と会議室は貸館スペースであり、当館が窓口となって貸館業務を行って

いる。通常は貸館での利用だが、見学については当館職員かボランティアスタッフが案内もしている。

(松井 委員)

暫定利用ということは将来的にはまた違う活用を考えているのか。

(小林 副館長)

新潟市が判断することになるが、テナント募集し入居してもらうことになるかどうか、現在見定めているかと思う。

(村山 委員)

先日、旧斎藤家住宅でばたばた茶のイベントに参加した。斎藤家と小澤家の違い、棲み分けは何か。どういったことで差別化を図るか、考えはあるか。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

組織的に、旧小澤家住宅はみなとぴあの下がりになっている。斎藤家とは以前まで共通券があったが無くなってしまい、現在ではチケット半券の提示で割引をしている。また小澤家と斎藤家は親戚ではある。

(村山 委員)

広報の点において、SNS、X、インスタグラムはどのような人をターゲットとして運営しているか。

(小林 副館長)

若い人に対する発信が弱いことから、インスタグラムは若い人が見るということを経営でもアドバイスをいただき開設した。

(村山 委員)

通常の客層の年代は把握しているか。

(小林 副館長)

小学校の団体や、中高年の方である。

(村山 委員)

そうすると、ミスマッチなのではないか。戦略として若い人ということなのか、来て欲しい人をどう考えるかで違ってくるので、若い人たちを狙って来ていたきたいというのであれば当然いいかなと。Xは違うかもしれませんが。柔軟にツールを増やすことなどを検討しては。

(原 委員)

小澤家で開催された関根先生の講演会に、行けなかったが個人的に興味があった。会場面のこともあると思うが、この内容で集客数が28人というのは、前例と比較してどのような評価なのか。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

施設的な定員としてはまずまずだが、多くの興味を得られた内容だったため、今後このような催しはより大きな会場が望ましいという考え方もあると小林副館長と話している。今年の実績として、企画自体は成功と考えている。

(原 委員)

小澤家住宅でやるとなると、会場のこともあるが、広報のやり方も変わってくるのではないか。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

今回は初めての試みだったため、収容人員を考えると1回目としてはよかった。「私も聞きたい」という人が出てきてから、会場や駐車場の関係は歴史博物館とも相談になると思う。

≪歴史博物館・旧小澤家住宅の運営方針≫ 補足

(小林 副館長)

昨年から協議し、今回改めて方針を設定した。設置から年数を経て建物の老朽化もだが、博物館法の改正のほか、博物館に求められていることも変化が生じてきている。目標の設定や運営方針を定めつつ、次につながるような評価が必要と考え、皆さんに評価をしていただくことにした。

2-(1)～(3)は新潟市文化創造都市ビジョンでも社会情勢の変化として挙

げられている文言である。なお(4)は同ビジョンでは博物館法ではなく上位の文化芸術基本法について謳われている。

5. 重点項目に挙げた内容ごとに委員の皆さまに評価をしていただくことを考えている。

《意見・質疑応答2》

(殖栗 委員)

Xとインスタグラムで投稿の内容が違うと思うが理由はあるか？

(村山 委員)

Xとインスタグラムで役割が違うと思う。Xは一方的に発信する取り組みなのに対し、インスタグラムは動画もありますから根本的に違いがあって当然。

(森 学芸課長)

内部的な事情では、インスタグラムは運協委員より、必要だからと指摘があり始めた。ただすぐに投稿数を増やすことも難しく、特性を生かしたり、棲み分けが十分にできておらず、まずはXの原稿を使って投稿することから始めた。今後はメディアの特性に合わせて運用したいが、同じ内容でも投稿を増やすことから取り組んでいきたい。

(渋川 委員)

博物館法の改正に関し、文化観光という言葉について、旧小澤家の事業がしっかりと来ている。上手く建物を利用して、お茶を飲んだり、夏至祭などのイベントがあり、環境を心から楽しむことができる。講演会の定員に限りがあっても、あの環境を利用することで差別化を図ることがいいと思う。ただ年配者からみると情報が入手しにくいので広報の仕方を考えてほしい。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

観光という着眼点から、新潟市観光政策課との関係づくりを、バス交通も含めてはじめたところ。発信についてはSNSとマスメディアを活用していきたい。

(渋川 委員)

ちなみに年寄りにはマスメディアです。なかなか SNS に触れる機会がないのでできるだけ新聞などをご活用ください。

(中村 委員)

新潟市文化創造都市ビジョンには触れられてないが、人口が増えることは望ましいので、移住者視点をもって欲しい。移住者がまず訪れて新潟を知れる場にして欲しい。それはインクルーシブという視点でもある。障害のある人でも短時間でも寄ってくれるようにできれば。

座敷という文化があるので仕方がないが、中高年の多くに膝腰の痛みがあるため、中座椅子があると来館の後押しになると思う。企画が良くても座敷に座るのがつらい事もある。

文化観光という言葉は耳障りがよいが、戦略を立てる際は各館の個性が表れることが望ましいと思う。小澤家の庭園がきっかけで石にはまる人もいたので、そういう人向けのミニ講座があってもいい。昔は藤の実を食べていた事実を取り込んだ企画を学生とやっていると新潟の食にも関わっていいと思う。

本日チラシを配布したが、聾の人は新潟市の歴史を知る機会がほぼなく大人になる。みなとびあ来館時には、ガイド付きでは 1 回だと情報でおなかいっぱいなので、3 回に分けて習得している。本物を見て感動したという声も聞いているので、彼らに届けられるように今後も展示の工夫を続けていってほしい。新しい取り組みも重要だが、これまで好評だったものは繰り返してもいいと思う。

(小林 副館長)

計画の策定にあたり、インクルーシブやユニバーサル、バリアフリーという言葉を使うことについては悩んだ。正直インクルーシブをやっていけるかは不安。どの程度やればよいか。

(中村 委員)

海外では既にアクセシブルという言葉に統一されている。フィジー博物館に行ったが、ほぼアクセシブルではなかった。車いすトイレは空きがなく、エレベーターも動かない状態で、設備があっても人混みが激しく使用できないこともあり、入館人数には限度があると思った。なのでどうアクセス可能か、もしくは不

可能かをはっきり示すことが重要。その上で要望があれば相談に応じることにすることが大事。全く提示していないと可能だと思われてしまうことがある。

(森 学芸課長)

アクセシブルの対象は「誰にとっても」であり、さらに個別の状況には適宜対応していくという認識で良いか？

(中村 委員)

子どもに対するときとほぼ変わらないと思う。子どもに新潟の歴史を教える時と同じように、実は高齢者はゆっくり見たいから高齢者だけの時間を設けてもいい。聾の人たちも通常の倍の時間がかかることがあるので、彼らを対象にそういった時間を設けてもいいし、5時の閉館がもう少し遅ければという事もあるように、いろんなアクセシブルがあると思う。今日忘れてきた資料もあるのでまた共有したい。できるところから始めれば様々な人が声をかけてくれると思うし、新しい新潟流のアクセシブルが実行できると新潟自慢ができると思う。

≪博物館評価≫ 補足

(森 課長)

資料4は運営方針の重点項目について作成した様式である。前回の会議までは「中期目標」としていたが、取り組みができていない点や取り組みが不十分な点に重点的に取り組むという趣旨で呼称を「重点項目」に変えた。多すぎるのではないかといったアドバイスを受けて減らし、またシンプルに数値化できるものに修正した。まずは館で自己評価をし、それぞれ「I. 博物館による自己点検と評価」を記したものを委員に見てもらい、評価をいただきたいと考えている。なお重点項目⑥は前回異なる名称だったが、対象を明確にするため「子どもと若年層に対する取り組み」に変更した。

評価の際は資料5の内容に留意していただきたい。当館の評価ではアンケート結果の満足度だけではない評価指標としたい。資料7のとおり、一人の委員に全ての事業を見ていただくのではなく、委員の専門性を加味して1～2項目を割り振りした。

委員の皆さまが実際に提出するものは資料6のとおりで、5段階評価をしていただく。「取組事業」は重点事業に相当する。「査定」は館の自己評価に対する

評価を、「行動」については改善案に対する評価をお願いしたい。

資料8に示す通り、博物館評価は年度末に実施したく、これまでの運営協議会開催時期を変更したい。新たに中間報告をするため10～11月に第2回を開催し、2月の第3回開催時に実施状況の報告をする。それを受けた評価をして館まで評価表をお送りいただきたい。いただいた当年度の評価は翌年度第1回協議会で報告し、意見交換を行う。このとおり1年強のサイクルとしたい。今後は任期を7月から2年後の6月末へスライドしたいが、今期だけは令和7年4月から令和9年6月末までの2年3カ月の任期とし、その後は2年間に戻す案である。

《意見・質疑応答3》

(村山 委員)

ある程度枠組みが決まっているが、達成目標を設定した方がわかりやすい。

(森 学芸課長)

各活動評価表のI. で数値的に目標設定できるところは示した。

(村山 委員)

SNSであれば、ファンになった数をカウントするとか、情報が伝わったかどうか、実際に見て来館したかどうかなど。取り組みを評価するのか、結果を達成したところを評価するのか、評価の仕方を示してもらってやりやすい。たとえばお客さんが満足するということを達成目標とすると、人数が足りていなくても達成したと見なせたりする。

(森 学芸課長)

SNSはこれまで目標設定も評価もしてこなかった。こちらも手探りなので、こういった評価の仕方・指標もあるという事も含めて評価していただきたい。

(石黒 委員)

昨年と比べて、より具体的になり、すっきりして評価しやすく、協力しやすくなった。任期を変えることもいいと思う。

例えば学校現場では少子化が急速に進んでいて、北区では15年後に中学生の数が半分に、中央区でも75%に減る。母数が少ないなか、達成しても次の目標

設定が難しい。皆さんの身近にある学校も、実は運動会や体育祭をただやるのではなくて、目標とする子どもの姿を掲げ、そのためにどういうことをするかを地域の方々と数値化をしています。当校は学校生活が楽しいという生徒が 95%を超えているが、来年はもっと増やすとなると目標 100%になってしまうので、掲げる目標を高くすることにし、ものすごく楽しいと感じている生徒をターゲットにした。このように今年からは今まで目標としていなかったことを目標としてみている。どのくらいの数字になるかわからないが目標を設定し、目標を高くしたから B 評価になったとしてもダメな学校というわけではない。

多角的・具体的・客観的に評価するための運協だと思うので、この取り組みは非常にいいと思う。昨年度までは来館者数が話題になっていたが、数値にこだわらずに、立てた目標のために実行しどうなったかを検証する材料にしてもらいたい。とりあえずやってみてかと思う。

(小林 副館長)

後日さらにお気づきの点があればご意見をいただきたい。

「事務局より報告」

(吉田 総務担当次長)

設置要綱で改正した第 4 条の任期の部分について。再任の任期の制限がなかったが、より多様な意見を取り入れるため今後は原則 6 年としたい。現在通算 6 年以上の委員がいるが、今期の令和 9 年 6 月までで終了としたい。

施設の休館等について。旧第四銀行住吉町支店は空調設備改修工事のため、本年 6 月から休館しており、11 月ごろまでの工期の予定である。また博物館本館については令和 8 年度に空調設備改修工事に伴う休館を予定している。市の関係課と協議をしており、時期や期間は未定。決まったら委員の皆様にも報告する。

以上